

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアに掲示している。毎日、確認しながら支援を行なっている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。また、便りなどを利用して理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	地域からも要望のある、地域用の便りの作成をする。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りや餅つきなど苑内行事に参加して下さる近所の方も増え顔見知りも増えてきて日常的に交流も増えてきている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	苑としても町内会に加入してる。また、地域への行事や清掃にも参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域高齢者の状況等をお聞きして検討している。また、校区社協の視察で校区の民生委員たちが来苑され苑内見学や意見交換などもできた。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を検討し改善できるようにスタッフ全員で取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で、地域の方の意見なども増えてきている。皆様の意見などをできる限り取り入れ、サービスの向上につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市役所担当者を訪問して、現在の問題点等を相談し、改善に向けて取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も地域権利擁護事業の利用者がいるため、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。しかし、成年後見人制度や権利擁護事業の資料は提供しているが、学習会まで行っていない。	○	今年度より研修計画を立てて行なう。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議の時にスタッフに虐待の防止について話している。また、虐待防止法についても各ユニットに資料を置き勉強できるようにしている。	○	今年度より研修計画を立てて行なう。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはその以前より詳しく説明したり不安や疑問点などを尋ね納得してもらってから契約や解除をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフより意見などを引き出すことを中心に、今年より市の介護相談員に来て頂き、利用者からの要望などを聞いてもらうようにしている。また、意見箱を1階に設置している。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎の苑の便りと毎月手紙を請求書と同封して近況をお知らせしている。金銭管理台帳も半年毎に送付している。また、変化があればそのつど家族に連絡を入れている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り、スタッフや意見箱などで意見や苦情などを聞きだすようにしているが、聞き出せていないのが現状である。	○	介護相談員などを利用して、外部へ表せる仕組み作りを検討していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンス会議の時に意見や提案を聞くようにしている。内容も検討しできる限り反映させている。	○	今後は定期的な個人面接等でも意見を聞いていく。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や利用者、家族の状況に応じて、スタッフの勤務体制を調整する様にしている。(時間帯の変更・勤務者数の増員等)		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動などはできる限り最小限にしている。異動や離職の時には、引継ぎや事前に利用者や面識を持つ等をして、利用者のダメージが最小限になるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人間性を重視しているため、性別や年齢で排除しないようにしている。従事するスタッフについても、本人の要望等をできるだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスの時等に利用者の人権などについて、話をしている。	○	研修の計画を立てて行なっていく。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外への勉強会の参加は積極的にしてもらっているが、苑内勉強会は少ない。また、段階に応じた研修が出来ていない。	○	管理者、計画作成担当者、スタッフなどの段階に分けた研修を計画していく。また、苑内勉強会に関しては年間計画を作成して行なっていく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会のグループホーム部会に加入し、相互訪問活動などを検討してもらっている。同校区のグループホームとは連携を図っている。	○	相互訪問等できるような関係作りをし、サービスの質の向上につなげていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会を開いたり、できる限りスタッフのストレス軽減には心がけているが、不十分である。(十分な休憩室がない等)	○	今後、改修により休憩室の確保の予定。また、定期的に個人面接などでストレスの軽減などに取り組んでいく。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	フロア長会議や管理者等の報告で状況を把握するように努めている。また、スタッフ個々に応じて興味のある勉強会の情報提供などを行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時点より、出来るだけ本人の思いを受け止めるために自宅訪問や体験入所等を重ねている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より何度も家族と連絡を取り情報交換の場を重ね、不安に思っていることや疑問点などを聞くようにしている。また、利用者の思い等も伝えるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当ケアマネやその他の関係機関などと話し、必要としている支援を見極めるようにしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、利用者と少しでも馴染みの関係を作る工夫をしている。また、本人が納得してから利用してもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは利用者を一方的な立場と考えずに、利用者からいろいろな事を教えてもらいながら生活している。	○	もっと、利用者の参加できる場面等を増やしていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	契約時に共に支えあっていく関係であることを話している。また、外出や行事等には積極的に家族への呼び掛けをしてお誘いしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会は歓迎して、いつでも都合のよい時に来苑して頂き利用者と家族が楽しく過ごせるように努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの制限がなければ、電話や手紙で関係してもらっているが、個別での外出ができていない。	○	家族への理解を深め、個別での外出の機会を作っていく。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	仲の良い利用者同士、自由に訪室しあったり話をしたりできる雰囲気作りに努めている。居室で過ごす事が好きな人にも事あるごとに声掛けを心がけている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が修了した後も、定期的に本人や家族に状況を聞いたり、年賀状などのやり取りをしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに接して話しをしながら把握に努めている。また、その希望などにも前向きに検討しながら対応している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前より利用者やご家族より話を聞き生活歴をとるようにしている。また、利用開始後もいろいろな話をしながら利用者の状況などの把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント要約表を利用したりし、利用者の状態を総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、関係者などの意見を聞き利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングに基づき、期間に応じて見直しをしている。入退院時や特別な変化がある時は、その都度、関係者との話し合いにより作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容としてその時の本人の気持ちや思い等の細かい点まで記入している。その後の対応などにいかすようにしている。	○	今後も定期的に記入方の研修を行なっていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望等、できる限り対応できるように柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できる限り民生委員やボランティア、消防署などと協力しながら支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用後も定期的に利用前のケアマネージャーには状況を報告している。また、利用者の希望で訪問理容等も利用している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは連絡を取り合っているが、協働まで至っていない。	○	今後は地域包括支援センターとの連携を密にして利用者の状況に応じて相談等していく。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望のかかりつけ医を大切に、出来る限りそのかかりつけ医と連携を図りながら支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関として常に職員からの利用者の相談等聞いてもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑内の看護師は24時間相談できるようにしている。また、協力医療機関の看護師にも相談できるような関係作りが出来ている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をすると共に家族の代弁者として希望を伝える。また、定期的に医師や看護師との情報交換や相談をし早期退院に向けて努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時より重度化や終末期のあり方については話をしている。利用開始後も本人の状況に応じてご家族・医師、その他関係スタッフと話し合いをして方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族との話し合いにの中で、「できること・できないこと」を伝えると同時に「してほしいこと」等を聞き、担当医や関係機関等と連携を図って利用者一人ひとりに合った支援を検討している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、関係機関との情報の共有をするとともに、住み替え前に馴染みのスタッフを作るなどの関係作り等をして対応している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にして、常々、介護理念に基づき、やさしい笑顔・言葉・心で対応するように心がけている。	○	日常的にスタッフ全員で声かけをし合い、言葉かけ等を注意していく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や自己決定を大切にしている。力量に応じて寄り添ったり、本人が希望を言い易いような環境作りや、ゆっくりしたペースで待つようにしている。	○	もっと、一人ひとりが希望を表現できるような場面作りを増やしていきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に利用者のペースを大切にすることを話しているが、職員側の決まりや都合のペースになりがちである。	○	もっと、日常的に一人ひとりのペースを大切にしたい対応を心がける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望のおしゃれを大切にしている。また、行きつけの美容室や理容室にも送迎を行っている。	○	鏡を利用者の目線で見られるように取り付けたい。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、認知症の進行や衛生面・ADLの低下により片付けも困難になってきている。	○	現状に合わせて時間をかけ一緒に楽しくできるように工夫していきたい。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	かかりつけ医に止められていないものであれば、本人の嗜好は大切にしている。(晩酌やおやつ等)		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りトイレでの排泄に心がけ、排泄パターンや尿意のサインを見逃さないようにしトイレ誘導を行なっている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当苑の都合になりがちである。しかし、できる限り利用者の希望を尊重し体調を考慮し楽しい入浴になるよう努めている。	○	もっと、利用者側に立って入浴の時間などの検討を行なっていく。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前の習慣を大切にし気持ちよく眠れるように支援している。(入眠前の談話やお酒等)		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操時の号令かけ担当、生け花担当など役割を持っていただき、いきいきと活動されている。	○	もっと、利用者の力を引き出せる場面作りに取り組む。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で所持したい利用者には希望するだけの金額所持してもらっている。管理は本人と家族と相談の上決めている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ本人の行きたい所へ送迎等をして支援しているが事業所の近所の店などである。また、天候や体調等を考慮して、少しでもドライブや散歩へ出かけている。	○	利用者一人ひとりの馴染みの店などにもいけるような支援を取り組んでいきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望等を家族に話して出来る限り支援しようとしているが、全ての希望を叶えてあげられないのが現状である。	○	利用者の希望が叶えられるように家族との関係作りや事業としての勤務なども検討して対応していきたい。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由にしてもらっている。しかし、家族からの制限があり、できない利用者もいる。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの人たちの訪問は歓迎している。訪問時には挨拶や声かけや居室にお茶の準備をするなど楽しく訪問してもらえる様に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては厳しく指導を受けており、スタッフ全員で拘束しないケアを実施している。	○	定期的に勉強会などで事例検討やスタッフ全員での研修を計画していく。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急な坂道のため、危険が伴い、鍵をかけている。そのことに対し家族にも理解を得ている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはお互いに協力し合い、利用者の見守りをしやすい場所にいたりして、状況や様子を把握して安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、はさみ等の刃物類は利用者の目の届かない所に保管しているが、利用者の状態に応じて、目薬や趣味で使用されるはさみ等を自分で管理されている方もいる。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ひやり・はつと」を記入し、毎月のカンファレンスの時に検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に年に1回の普通救命講習を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の両方を想定した定期的な火災訓練を行っている。また、毎朝申し送りの際、防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。地域住民参加での避難訓練はできていない。	○	現在、近隣の同グループ施設と連携方法を検討中である。また、地域住民参加の消防訓練も自治会長と共に検討していく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりのリスクについては、家族との面会時等によく説明して、出来る限り利用者に抑圧感にならないように対応している。その後も定期的に報告なども行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや本人の訴え及びチェックシート、本人の顔色や日常生活上で異変を早期に発見し、その都度、すぐにかかりつけ医に相談し指示をもらうようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の処方について、処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳し、スタッフ全員で確認している。また、服薬後に変化などあった場合にはすぐにかかりつけ医等に連絡するようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、食物繊維の多いものを調理したり、運動をする等の工夫し、薬に頼らない排便に心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来る限り毎食後の口腔ケアを心がけているが、ケア介助が必要な方に対しては時間の都合や拒否等により毎食後とは出来ていない。	○	口腔ケアの勉強会を計画すると共に、出来る限り毎食後の口腔ケアが出来るように取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は定期的に専門家に見てもらっている。水分補給に関しては午前と午後に時間を確保して、それ以外でも本人の状況に応じて支援している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを準備して回覧している。また、流行の感染症の情報を流す様にしている。苑内での勉強会が出来ていない。	○	苑内研修の計画を立てて勉強会を開催する。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒をしたり、食中毒の時期にはできる限り生物は使用しない、仕入れも新鮮で安全なものを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	坂があるため、入りにくいが玄関のプランターには季節折々の花を植え入り口内には入居者作の生け花を飾って和やかさをだしている。1階スタッフで美化委員を設け、苑まわりの美化に努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮しているが陽射しが入りにくく暗い。玄関、フロア、トイレ等季節の花を生けている。また、季節感を取り入れた飾りつけをしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで一人ひとりが自由に過ごせるようにしている。また、廊下にもソファを置いたりして思い思いに過ごせる様に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活用品を持ってきて頂いている。思い出深い写真や好きなものを自由に飾られている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際は換気している。温度調整、換気にはいつも配慮して利用者に合わせてこまめに行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは設置できているが、トイレの便座が高く洗面台には車椅子が入らず、又深くて使いにくい。	○	今後、トイレ、洗面台等について身体機能に対応できる様改修予定である。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に一人ひとり好きな目印をつけたり、トイレや浴室などに札をつけて混乱や失敗を防ぐようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場を利用して、歌を唄ったり、おやつを食べたりしながら季節感を感じるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・フロア内でも季節を感じられるように飾り付け等をしている。
- ・食事は各個人の生活リズムに合わせている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロアに掲示し、毎日、朝礼時に声を出して言い、理念に基づいて支援するようにしている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。また、便りなどを利用して理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	地域からも要望のある、地域用の便りの作成をする。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板の回覧や缶当番、掃除の打合せ等、気軽に交流が図れるようになった。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	苑としても町内会に加入してる。また、地域への行事や清掃にも参加している。	○	今後は地域への公民館活動などにも参加していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域高齢者の状況等をお聞きして検討している。また、校区社協の視察で校区の民生委員たちが来苑され苑内見学や意見交換などもできた。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を検討し改善できるようにスタッフ一人ひとりが取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で、地域の方の意見なども増えてきている。皆様の意見などをできる限り取り入れ、サービスの向上につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市役所担当者を訪問して、現在の問題点等を相談し、改善に向けて取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も地域権利擁護事業の利用者がいるため、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。しかし、成年後見人制度や権利擁護事業の資料は提供しているが、学習会まで行っていない。	○	今年度より研修計画を立てて行なう。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議の時にスタッフに虐待の防止について話している。また、虐待防止法についても各ユニットに資料を置き勉強できるようにしている。	○	今年度より研修計画を立てて行なう。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはその以前より詳しく説明したり不安や疑問点などを尋ね納得してもらってから契約や解除をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフより意見などを引き出すことを中心に、今年より市の介護相談員に来て頂き、利用者からの要望などを聞いてもらうようにしている。また、意見箱を1階に設置している。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎の苑の便りと毎月手紙を請求書と同封して近況をお知らせしている。金銭管理台帳も半年毎に送付している。また、変化があればそのつど家族に連絡を入れている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り、スタッフや意見箱などで意見や苦情などを聞きだすようにしているが、聞き出せていないのが現状である。	○	介護相談員などを利用して、外部へ表せる仕組み作りを検討していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンス会議の時に意見や提案を聞くようにしている。内容も検討しできる限り反映させている。	○	今後は定期的な個人面接等でも意見を聞いていく。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や利用者、家族の状況に応じて、スタッフの勤務体制を調整する様にしている。(時間帯の変更・勤務者数の増員等)		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動などはできる限り最小限にしている。異動や離職の時には、引継ぎや事前に利用者や面識を持つ等をして、利用者のダメージが最小限になるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人間性を重視しているため、性別や年齢で排除しないようにしている。従事するスタッフに関しても、本人の要望等をできるだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮しているが、人員の配置の関係で有給が取りにくい。	○	もっと有給が取りやすい様に人員を配置していく。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスの時等に利用者の人権などについて、話をしている。	○	研修の計画を立てて行なっていく。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外への勉強会の参加は積極的にしてもらっているが、苑内勉強会は少ない。また、段階に応じた研修が出来ていない。	○	管理者、計画作成担当者、スタッフなどの段階に分けた研修を計画していく。また、苑内勉強会に関しては年間計画を作成して行なっていく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会のグループホーム部会に加入し、相互訪問活動などを検討してもらっている。同校区のグループホームとは連携を図っている。	○	相互訪問等できるような関係作りをし、サービスの質の向上につなげていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会を開いたり、できる限りスタッフのストレス軽減には心がけているが、不十分である。	○	有給の確保や定期的に個人面接などでストレスの軽減などに取り組んでいく。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	フロア長会議や管理者等の報告で状況を把握するように努めている。また、スタッフ個々に応じて興味のある勉強会の情報提供などを行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時点より、出来るだけ本人の思いを受け止めるために自宅訪問や体験入所等を重ねている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より何度も家族と連絡を取り情報交換の場を重ね、不安に思っていることや疑問点などを聞くようにしている。また、利用者の思い等も伝えるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当ケアマネやその他の関係機関などと話し、必要としている支援を見極めるようにしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、利用者と少しでも馴染みの関係を作る工夫をしている。また、本人が納得してから利用してもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは利用者を一方的な立場と考えずに、利用者からいろいろな事を教えてもらいながら生活している。	○	時間割にとらわれず、利用者との親交の時間をもっと作る。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	契約時に共に支えあっていく関係であることを話している。また、面会時等で家族と共に考える時間を持つようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会は歓迎して、いつでも都合のよい時に来苑して頂き利用者と家族が楽しく過ごせるように努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの制限がなければ、電話や手紙で関係してもらっているが、個別での外出ができていない。	○	家族への理解を深め、個別での外出の機会を作っていく。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士で同じ趣味をもった方には材料を用意してお互いに教え合い、一緒に作業をすすめ共有する時間をもつよう支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が修了した後も、定期的に本人や家族に状況を聞いたり、年賀状などのやり取りをしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活を見つめ、利用者の希望や意向の把握に努めている。また、その希望などにも利用者本位で検討している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前より利用者やご家族より話を聞き生活歴をとるようにしている。また、利用開始後もいろいろな話をしながら利用者の状況などの把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント要約表を利用したり、スタッフ間の連携を密にすることで利用者の状態を総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、関係者などの意見を聞き利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングに基づき、期間に応じて見直しをしている。入退院時や特別な変化がある時は、その都度、関係者との話し合いにより作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容としてその時の本人の気持ちや思い等の細かい点まで記入している。その後の対応などにいかすようにしている。	○	より具体的な記録を目指し、スタッフにより差異がないよう指導していく。今後、定期的に記入方の研修を行なっていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望等、できる限り対応できるように柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できる限り民生委員やボランティア、消防署などと協力しながら支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用後も定期的に利用前のケアマネージャーには状況を報告している。また、利用者の希望で訪問理容等も利用している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは連絡を取り合っているが、協働まで至っていない。	○	今後は地域包括支援センターとの連携を密にして利用者の状況に応じて相談等していく。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望のかかりつけ医を大切に、出来る限りそのかかりつけ医と連携を図りながら支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関として常に職員からの利用者の相談等聞いてもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑内の看護師は24時間相談できるようにしている。また、協力医療機関の看護師にも相談できるような関係作りが出来ている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をすると共に家族の代弁者として希望を伝える。また、定期的に医師や看護師との情報交換や相談をし早期退院に向けて努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時より重度化や終末期のあり方については話をしている。利用開始後も本人の状況に応じてご家族・医師、その他関係スタッフと話し合いをして方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族との話し合いの中で、「できること・できないこと」を伝えると同時に「してほしいこと」等を聞き、担当医や関係機関等と連携を図って利用者一人ひとりに合った支援を検討している。	○	本人や家族が納得戴ける行き届いた看取りを目指す。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、関係機関との情報の共有をするとともに、住み替え前に馴染みのスタッフを作るなどの関係作り等をして対応している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前の表示等でも本人や家族の希望があれば外部者の目に触れないように対応している。また、言葉掛けにしても利用者の尊厳を大切にして、敬語を基本に馴染みの方言も使っている。	○	日常的にスタッフ全員で声かけをし合い、言葉かけ等を注意していく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望等が言い易い環境作りや、利用者のペースに合わせて気持ちを受け止めて支援している。	○	もっと、一人ひとりが希望を表現できるような場面作りを増やしていきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を楽しく笑顔で暮らしていけるよう、出来る限りその人にあったペースで支援していく。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望むお店など希望される場合は対応している。現在は本人やご家族の希望もありスタッフがカットしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備はしていないが、本人の状況等で片付けなどスタッフと一緒にされる。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	総合的に考えて体の負担にならないように摂ってもらっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズム等を考慮して、利用者からのサインを見逃さないようにしてトイレ誘導を行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当苑の都合になりがちである。しかし、できる限り利用者の希望を尊重し体調を考慮し楽しい入浴になるよう努めている。	○	もっと、利用者側に立って入浴の時間等を検討も行っていく。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠前の習慣を尊重している。また、状況に応じて昼寝を勧めたりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	退屈しないように体操をしたり、能力に応じたレクリエーションが出来るよう努めている。	○	みんなでの取り組みを好まれる傾向にはあるが、もっと、一人ひとりにあった楽しみごとや張り合いある役割を見つけ出す。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金は事務所で管理している。しかし、買い物を楽しみを味わっていただくために行事の時に計画することもある。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望されることが少ない。また、外出などの変化を好まれない場合も多いので本人の希望がある時は、外出の機会を作れるよう努めている。	○	希望の外出が出来るような体制を検討する。外気浴や散歩等を多く取り入れていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別で体調の良い日には外出を行い、年に数回、全員で外出、外食の行事を行っている。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。実現できるように勤務なども変更していく。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等に利用者の方に一言書いて頂くか名前を自筆で書いてもらい送付している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	毎月、手紙等でお誘いし、気軽に訪問していただけるよう心がけている。訪問の際はお茶の用意や気兼ねなく話ができるように、他のスペースも用意している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間での話し合いで拘束をしない介護に取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急な坂道のため、危険が伴い、鍵をかけている。そのことに対し家族にも理解を得ている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはお互いに協力し合い、利用者の見守りをしやすい場所にいたりして、状況や様子を把握して安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、はさみ等の刃物類は利用者の目の届かない所に保管しているが、利用者の状態に応じて、目薬や趣味で使用されるはさみ等を自分で管理されている方もいる。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ひやり・はつと」を記入し、毎月のカンファレンスの時に検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に年に1回の普通救命講習を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の両方を想定した定期的な火災訓練を行っている。また、毎朝申し送りの際、防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。地域住民参加での避難訓練はできていない。	○	現在、近隣の同グループ施設と連携方法を検討中である。また、地域住民参加の消防訓練も自治会長と共に検討していく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状態を最低でも月に1回手紙や電話で報告している。リスクについても説明して、対応策を検討している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや本人の訴え及びチェックシート、本人の顔色や日常生活上で異変を早期に発見し、その都度、すぐにかかりつけ医に相談し指示をもらうようにしている。		
76	—	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の処方について、処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳し、スタッフ全員で確認にしている。		
77	—	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便のための勉強会に参加して理解を深めたり、排便の為にヒハビリ体操や水分補給に注意している。		
78	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来る限り毎食後の口腔ケアを心がけているができていない。夕食後は一人ひとりの状態に合わせて必要な介助を行い、義歯は洗浄液を使用して清潔に保てるよう支援している。	○	口腔ケアの勉強会を計画する。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は定期的に専門家に見てもらっている。水分補給に関しては午前と午後に時間を確保して、それ以外でも本人の状況に応じて支援している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを準備して回覧している。また、流行の感染症の情報を流す様になっている。苑内での勉強会が出来ていない。	○	苑内研修の計画を立てて勉強会を開催する。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒をしたり、食中毒の時期にはできる限り生物は使用しない、仕入れも新鮮で安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	坂の上であり、出入りがしにくいことが難点だが、玄関前には四季折々の花など植え、玄関には利用者の生け花作品が常時、飾られている。1階の職員が委員となり美化に努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間としては家庭的雰囲気欠ける。やすらぎ、居心地よく過ごせるような雰囲気には乏しい。花を飾ったり、壁に季節のものを飾ったりしている。	○	現在の設備の中で、居心地よい生活空間となるよう知恵を出していきたい。静かで落ち着きがあり、利用者が自然と集まってくるフロアとなった。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを分け、座りたい所に座っていただくようにしている。また、廊下の奥まった所に、ソファを置いて、1人、2人でホッと落ち着けるスペースになるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってこられるものは、そのまま使用していただいている。家族からの手紙、写真等を飾られたり、静かな時間を過ごせるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際に限らず、常時換気には気をつけている。臭いについても、第一に掃除、換気に努め、場合に応じ消臭剤を使用している。温度、湿度の調整も行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは設置できているが、トイレの便座が高く洗面台には車椅子が入らず、又深くて使いにくい。	○	今後、トイレ、洗面台等について身体機能に対応できる様改修予定である。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に一人ひとり好きな目印をつけたり、トイレや浴室などに札をつけている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	危険が伴い活動できないが、スタッフ同伴で日光浴程度は可能である。	○	2階から直接出入りできるベランダを改修予定である。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎日、リハビリ体操や嚙下体操を行い、筋力を保持し誤嚥等ないように心がけている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念が新しくなり『地域とのふれあいを深め、その人らしい生き方を』としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアになど見やすいところに掲示している。毎朝、申し送り時に職員皆で理念を読み上げ認識し、実行している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。また、便りなどを利用して理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	地域からも要望のある、地域用の便りの作成をする。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事に参加しているうちに顔見知りが増え、日常的にも挨拶をしたりし交流を図っている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	苑としても町内会に加入してる。また、地域への行事や清掃にも参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域高齢者の状況等をお聞きして、何か暮らしに役立てることはないか検討している。また、校区の社協より視察で来苑されよい意見交換等ができた。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を検討し改善できるようにスタッフ全員で取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で、地域の方の意見なども増えてきている。皆様の意見などをできる限り取り入れ、サービスの向上につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市役所担当者を訪問して、現在の問題点等を相談し、改善に向けて取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も地域権利擁護事業の利用者がいるため、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。しかし、成年後見人制度や権利擁護事業の資料は提供しているが、学習会まで行っていない。	○	今年度より研修計画を立てて行なう。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議の時にスタッフに虐待の防止について話している。また、虐待防止法についても各ユニットに資料を置き勉強できるようにしている。	○	今年度より研修計画を立てて行なう。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはその以前より詳しく説明したり不安や疑問点などを尋ね納得してもらってから契約や解除をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフより意見などを引き出すことを中心に、今年より市の介護相談員に来て頂き、利用者からの要望などを聞いてもらうようにしている。また、意見箱を1階に設置している。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎の苑の便りと毎月手紙を請求書と同封して近況をお知らせしている。金銭管理台帳も半年毎に送付している。また、変化があればそのつど家族に連絡を入れている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り、スタッフや意見箱などで意見や苦情などを聞きだすようにしているが、聞き出せていないのが現状である。	○	介護相談員などを利用して、外部へ表せる仕組み作りを検討していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンス会議の時に意見や提案を聞くようにしている。内容も検討しできる限り反映させている。	○	今後は定期的な個人面接等でも意見を聞いていく。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や利用者、家族の状況に応じて、スタッフの勤務体制を調整する様にしている。(時間帯の変更・勤務者数の増員等)		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動などはできる限り最小限にしている。異動や離職の時には、引継ぎや事前に利用者や面識を持つ等をして、利用者のダメージが最小限になるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人間性を重視しているため、性別や年齢で排除しないようにしている。従事するスタッフに関しても、本人の要望等をできるだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスの時等に利用者の人権などについて、話をしている。	○	研修の計画を立てて行なっていく。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外への勉強会の参加は積極的にしてもらっているが、苑内勉強会は少ない。また、段階に応じた研修が出来ていない。	○	管理者、計画作成担当者、スタッフなどの段階に分けた研修を計画していく。また、苑内勉強会に関しては年間計画を作成して行なっていく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会のグループホーム部会に加入し、相互訪問活動などを検討してもらっている。同校区のグループホームとは連携を図っている。	○	相互訪問等できるような関係作りをし、サービスの質の向上につなげていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会を開いたり、できる限りスタッフのストレス軽減には心がけているが、不十分である。	○	ユニット内での食事会を計画したり、定期的に個人面接などでストレスの軽減などに取り組んでいく。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	フロア長会議や管理者等の報告で状況を把握するように努めている。また、スタッフ個々に応じて興味のある勉強会の情報提供などを行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時点より、出来るだけ本人の思いを受け止めるために自宅訪問や体験入所等を重ねている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より何度も家族と連絡を取り情報交換の場を重ね、不安に思っていることや疑問点などを聞くようにしている。また、利用者の思い等も伝えるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当ケアマネやその他の関係機関などと話し、必要としている支援を見極めるようにしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、利用者と少しでも馴染みの関係を作る工夫をしている。また、本人が納得してから利用してもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃より、スタッフは利用者を一方的な立場と考えず、本人の心身の状態を見極め、テーブル拭きや洗濯物たたみ、モップがけ等を一緒にやっている。	○	もっと、利用者の参加できる場面等を増やしていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	契約時に共に支えあっていく関係であることを話している。また、外出や行事等には積極的に家族への呼び掛けをしてお誘いしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月の手紙や電話などで面会も来て頂けるようお願いしている。また、面会時には歓迎して利用者のご家族が楽しく過ごせるよう支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	納骨堂参りや集会など関係が途切れないように努めている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	仲の良い利用者同士、自由に訪室しあったり話をしたりできる雰囲気作りに努めている。居家で過ごす事が好きな人にも事あるごとに声掛けを心がけている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が修了した後も、定期的に本人や家族に状況を聞いたり、年賀状などのやり取りをしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の力や状態に応じて、一人ひとりに接して話しをしながら把握に努め、前向きに検討しながら対応している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前より利用者やご家族より話を聞き生活歴をとるようにしている。また、利用開始後もいろいろな話をしながら利用者の状況などの把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント要約表を利用したり、ケース記録や連絡ノートを活用し、総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、関係者などの意見を聞き利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングに基づき、期間に応じて見直しをしている。入退院時や特別な変化がある時は、その都度、関係者との話し合いにより作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容としてその時の本人の気持ちや思い等の細かい点まで記入している。その後の対応などにいかすようにしている。	○	今後も定期的に記入方の研修を行なっていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望等、できる限り対応できるように柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性を見極め、できる限りボランティアや消防署などと協力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用後も定期的に利用前のケアマネージャーには状況を報告している。また、利用者の希望で訪問理容等も利用している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは連絡を取り合っているが、協働まで至っていない。	○	今後は地域包括支援センターとの連携を密にして利用者の状況に応じて相談等していく。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望のかかりつけ医を大切に、出来る限りそのかかりつけ医と連携を図りながら支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関として常に職員からの利用者の相談等聞いてもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑内の看護師は24時間相談できるようにしている。また、協力医療機関の看護師にも相談できるような関係作りが出来ている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をしたり、顔馴染みのスタッフが洗濯物を届ける等している。また、定期的に医師や看護師との情報交換や相談をし早期退院に向けて努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時より重度化や終末期のあり方については話をしている。利用開始後も本人の状況に応じてご家族・医師、その他関係スタッフと話し合いをして方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族との話し合いの中で、「できること・できないこと」を伝えると同時に「してほしいこと」等を聞き、担当医や関係機関等と連携を図って利用者一人ひとりに合った支援を検討している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、関係機関との情報の共有をするとともに、住み替え前に馴染みのスタッフを作るなどの関係作り等をして対応している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない介助や本人の思っている現実の受容に努める等の配慮した声かけや対応を行っている。	○	日常的にスタッフ全員で声かけをし、言葉かけ等を注意していく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や自己決定を大切にしている。力量に応じて寄り添ったり、本人が希望を言い易いような環境作りや、ゆっくりしたペースで待つようにしている。	○	もっと、一人ひとりが希望を表現できるように働きかけを検討していく。
54	24	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に利用者のペースを大切にすることを話しているが、職員側の決まりや都合に合わせるが多い。	○	日常的に一人ひとりのペースを大切にした対応を心がける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望のおしゃれを大切にしている。また、行きつけの美容室や理容室にも送迎を行っている。また、誕生会の時はスタッフと一緒に化粧などをして参加して貰っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、利用者の状態により、一緒に準備はできないが、下膳や片付けは一緒にしている。検食簿の活用で利用者の好み等を取り入れる事に努めている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師に止められていないものであれば、身体状況により医師と相談し曜日、量等を決めて本人の嗜好は大切にしている。(晩酌やおやつ等)		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りオムツの使用を減らし、トイレでの排泄に心がけ、排泄パターンや尿意のサインを見逃さないようにしトイレ誘導をしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合になっていることが多いが、順番などはなるべく希望の通りになるよう支援している。また、公平性の観点から誰でも一番風呂がまわって来る様に支援している。ただし感染症のある方は最後になる事もある。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前の習慣を大切に気持ちよく眠れるように支援している。(入眠前の談話やお酒等)		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや自分の洗濯物は自分でたたまれる等されている。また、洗面所やフロアのモップ掛け等を喜んでされる方もいる。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には、1万円未満は本人に所持してもらい、1万円以上はなるべく事務所で管理している。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴や散歩を行っているが同じ利用者になりがちである。しかし、隣の農業試験場でイベントがあるたびに野菜、花の見学、試食等に参加している。	○	利用者一人ひとりの馴染みの店などにもいけるような支援を取り組んでいきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望等を家族に話して出来る限り支援しようとしているが、全ての希望を叶えてあげられないのが現状である。	○	利用者の希望が叶えられるように家族との関係作りや事業としての勤務なども検討して対応していきたい。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由にしてもらっている。年賀状、暑中見舞いのハガキに一言本人に書いて頂き、家族へ現状の様子を知らせている。しかし、できない利用者もいる。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの人たちの訪問は歓迎している。訪問時には挨拶や声かけや居室にお茶の準備をするなど楽しく訪問してもらえる様に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	定期的に勉強会などで事例検討やスタッフ全員での研修を計画していく。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急な坂道のため、危険が伴い、鍵をかけている。そのことに対し家族にも理解を得ている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはお互いに協力し合い、利用者の見守りをしやすい場所にいたりして、状況や様子を把握して安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、はさみ等の刃物類は利用者の目の届かない所に保管しているが、利用者の状態に応じて、目薬や趣味で使用されるはさみ等を自分で管理されている方もいる。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ひやり・はつと」を記入し、毎月のカンファレンスの時に検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に年に1回の普通救命講習を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の両方を想定した定期的な火災訓練を行なっている。また、毎朝申し送りの際、防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。地域住民参加での避難訓練はできていない。	○	現在、近隣の同グループ施設と連携方法を検討中である。また、地域住民参加の消防訓練も自治会長と共に検討していく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりのリスクについては、家族との面会時等によく説明して、出来る限り利用者に抑圧感にならないように対応している。その後も定期的に報告なども行なっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや本人の訴え及びチェックシート、本人の顔色や日常生活上で異変を早期に発見し、その都度、すぐにかかりつけ医に相談し指示をもらうようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の処方について、処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳し、スタッフ全員で確認している。また、服薬後に変化などあった場合にはすぐにかかりつけ医等に連絡するようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、おやつにヨーグルトを出したり、食物繊維の多いものを調理したり、ラジオ体操など運動をする等工夫し、薬に頼らない排便に心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後される方もおられるが、まだ全員の取り組みには至っていない。夕食後は必ず実施している。	○	口腔ケアの勉強会を計画すると共に、出来る限り毎食後の口腔ケアが出来るように取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は定期的に専門家に見てもらっている。水分補給に関しては午前と午後に時間を確保して、それ以外でも本人の状況に応じて支援している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを準備して回覧している。また、流行の感染症の情報を流す様になっている。苑内での勉強会が出来ていない。	○	苑内研修の計画を立てて勉強会を開催する。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒をしたり、食中毒の時期にはできる限り生物は使用しない、仕入れも新鮮で安全なものを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	坂があるため、入りにくいが玄関のプランターには季節折々の花を植え入り口内には入居者作の生け花を飾って和やかさをだしている。1階スタッフで美化委員を設け、苑まわりの美化に努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真を貼ったり、季節の花を飾り居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで一人ひとりが自由に過ごされるようにしている。また、廊下にもソファを置いたりして思い思いに過ごせる様に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活用品を持ってきて頂いている。思い出深い写真や好きなものを自由に飾られている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際は換気している。温度調整、換気にはいつも配慮して利用者に合わせてこまめに行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部所に手すりは設置している。身体機能の変化に応じ歩行器や車椅子等を設置使用し活動性を維持している。	○	洗面所等をより使いやすい設備に改修予定。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に一人ひとり好きな目印をつけたり、トイレや浴室などに札をつけて混乱や失敗を防ぐようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場を利用して、歌を唄ったり、おやつを食べたりしながら季節感を感じるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者を家族と思い、日常的に接している。誤嚥を防ぐために食事の前に嚥下体操を行っている。参加したくない利用者には冷茶などを飲んで頂き、アイスマッサージを行っている。また、出来るだけいろいろな行事を行うことでいきいきと生活できるようにしている。